



学力向上フロンティア事業 漁業士内弟子体験 ＜3年海洋科学科 刺網漁業＞ 「ことばの力」トライアル

＜永瀆 千春＞

刺網漁業は今回初めて体験しました。これまで経験した定置網や底曳網は大量の魚が漁獲できましたが、刺網は少量でした。漁獲できた魚の種類も違い、今回はカレイ類、マダイ・キダイ、コチなどが漁獲できました。目的の魚種によって網の目合や長さ、設置する水深を変えたりするそうです。

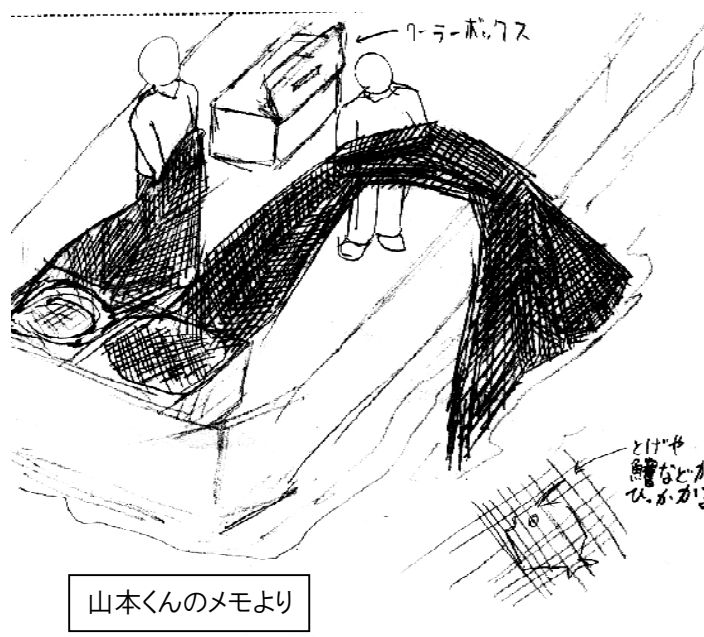
漁業士の方との意見交流会では、刺網漁業でも高齢化が問題になっているそうです。「若い」人でも60歳代、80歳以上になっても続けている方もおられることに驚きました。若い漁師が減っているのは知っていましたが、私たちの祖父母よりも高齢の方々が重労働である漁師をされていることを聞き、若い漁師が増えてくれたらいいなと改めて感じました。



＜山本 達之介＞

私たちは20人で刺網を揚げ、網に絡まった魚を外す作業をさせていただいた。漁業者の方はこれを1人でされると聞き、驚いた。ウマヅラハギの棘(きょく)やエソの鋭い歯が網に引っかかり、すぐに網が破れてしまう。思っていた以上に死んでボロボロになっている魚も引っ掛かっていた。あとから漁業者の方に聞くと、海水中で虫が死んだ魚体を食べているからだということだった。網を仕掛けたのは前日の夕方なので、たった半日でボロボロになった魚を見て、魚体の繊細さが理解できた。

また、意見交流の中で、今の魚食文化が衰退しているのは、私たちの親世代が魚を食べなくなったからだということがわかった。私は将来、海の魅力や魚の不思議を子どもたちに伝える仕事をしたいと思っている。今回、漁業士の方の話を聞いて、親世代も含めた生涯学習としての水産教育が必要ではないかと感じた。



＜吉岡 勇司＞

刺網漁業は今回が初めての体験だったので、大変勉強になりました。

漁業士の方との交流会で、刺網は以前は専門にされている人もいたが、手間がかかるので、今はいないだろうと教えていただきました。私も実際に作業を経験してみて、網から魚を取り外すのに時間がかかるし、網が魚体を締め付ける傷(ワッパ)が付いてしまうことがわかりました。

私は今回漁獲したような商品価値の下がってしまった魚を加工する技術や加工食品の開発をしたいと思います。それにより地元の水産業が活性化し、漁業者の収入の増加にもつなげていきたいです。